

| | | | | | |
|--|--|--------|---------------------------|--------------|------|
| 日本工学院専門学校 | 開講年度 | 2019年度 | 科目名 | 音楽基礎1（音楽理論） | |
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 開設学科 | ミュージックアーティスト科 | コース名 | プレイヤーコース | 開設期 | 前期 |
| 対象年次 | 1年次 | 科目区分 | 必修 | 時間数 | 30時間 |
| 単位数 | 2 単位 | | | 授業形態 | 講義 |
| 教科書/教材 | 毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。 | | | | |
| 担当教員情報 | | | | | |
| 担当教員 | 金澤法皇、末光篤 | | 実務経験の有無・職種 | 有・音楽講師、理論書出版 | |
| 学習目的 | | | | | |
| この科目を受講する学生は、音楽分野におけるあらゆる基礎となる知識について学び、特に曲作りにおいて重要な役割を担うものです。と同時に、音楽においてだけでなく、実社会において全ての事象には学ぶことや、考えること、思考の必要性の重視も説いていく事を目的とします。 | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| 様々な基本用語を覚え、実際の実習で活かせるようにする。また、様々な手法を駆使して、自身のオリジナル楽曲にいかせるようにする。既存曲も自身で楽曲分析を出来るようにする。 | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 授業概要 | この授業では、テスト形式の筆記的思考をまずクリアしていくように、定義や概念の説明の後に必ず問題を解かせ、その後、実践形式の応用をやって行く形式です。 | | | | |
| 注意点 | この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。 | | | | |
| 評価方法 | 種別 | 割合 | 備 考 | | |
| | 試験・課題 | 50% | 試験と課題を総合的に評価する | | |
| | 小テスト | 10% | 授業内容の理解度を確認するために実施する | | |
| | レポート | 10% | 授業内容の理解度を確認するために実施する | | |
| | 成果発表 (口頭・実技) | 20% | 授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する | | |
| | 平常点 | 10% | 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する | | |
| 授業計画（1回～15回） | | | | | |
| 回 | 授業内容 | | 各回の到達目標 | | |
| 1 回 | リズムと音符 | | リズム、音価について学ぶ | | |
| 2 回 | リズムと音符・休符 | | リズム、音価と休符について学ぶ | | |
| 3 回 | メジャースケールとメジャーキー(1) | | メジャーキーについての把握の為のスケールを把握1 | | |
| 4 回 | メジャースケールとメジャーキー(2) | | メジャーキーについての把握の為のスケールを把握2 | | |
| 5 回 | 調(キー) | | メジャーキーについての把握 | | |
| 6 回 | 音程(インターバル) (1) | | 音程(インターバル2度～5度)についての把握1 | | |
| 7 回 | 音程(インターバル) (2) | | 音程(インターバル6度)についての把握2 | | |
| 8 回 | 音程(インターバル) (3) | | 音程(インターバル7度)についての把握3 | | |
| 9 回 | 音程と調の関係性と応用 | | 音程と調の関係性の把握と応用 | | |
| 1 0 回 | 音程と調の実践問題 | | 音程と調の完全把握 | | |
| 1 1 回 | ダイアトニックコード3和音 | | 3和音のダイアトニックコードの把握 | | |
| 1 2 回 | ダイアトニックコード4和音 | | 4和音のダイアトニックコードの把握 | | |
| 1 3 回 | 機能と和声 | | ダイアトニックとその機能 | | |
| 1 4 回 | 機能と和声 応用 | | 作曲の理論的実践 | | |
| 1 5 回 | まとめ | | 総復習 | | |